

第七條 場合ハ出資金額拾圓三付キ釐業ノ割合ヲ以ツテ票決スルコトヲ要ス

第八條 本企組ノ保管スル現金ハ、管理委員會が全會一致ヲ以ツテ決シタル二個ノ銀行ニ預ク入ルヲ原則トス

一、名義人ハ委員長之ニ任ズ 二、印鑑ハ四個ニ分割シ四名ノ責任委員各一片ヲ保管ルモノトス 三、責任委員ハ管理

委員ニ於イテ全會一致ヲ以ツテ選出セラル事ヲ要ス 四、預金通帳、出資金原簿、出納簿ハ委員長之ヲ保管ス

第九條 本企組事務ハ管理委員會ノ選出セル當任委員之ヲ處理スルモノトス

第十條 本企組出資組合が借受ノ請求ヲナシタル時ハ右ノ規定ニヨリハ貸出ナガムモノトス

一、該組合ノ出資金額ニ達スル迄ノ貸出ハ責任委員ノ同意ヲ得テ委員長之ヲ行フ

二、出資金額以上ノ貸出ハ該組合ノ罷業前ノ出資額ヲ以ツテ限度トシ管理委員會ニ於イテ決定スルモノトス但シ左ノ條件

ヲ具備スルコトヲ要ス

(ア) 二個組合以上ノ連帶保證(ロ) 管理委員會全會一致ノ同意

第十一條 本企組合ハ關東労働同監會執行委員會ノ意見ヲ參照スルコト

第一條 一切ノ貸出ハ關東労働同監會執行委員會一致ノ以ツテスルモノトス 二、獲得シタル爭議費用ハ速時返還ニ當ルモノトス

三、出資額ヲ貸シ出シ得ルモノトス

第十二條 貸出ヲ受タル組合ハ左ノ方法ヲ以ツテ返還スルモノトス

一、罷業費用ノ殘額ハ速時返還スルモノトス 二、獲得シタル爭議費用ハ速時返還ニ當ルモノトス 三、貸出ノ際ニ於

ケル契約ノ實行

附 則 本規約中組合ト稱スルハ當分ノ内支部ヲ含ム

本規約ハ昭和一年七月一日ヨリ實施ス

社會民衆黨第五十六議會提出——勞動組合法案

第一條 勞働組合ハ勞働條件ノ維持改善其ノ被傭者ノ共同ノ利益ヲ増進スルナ目的トス。被傭者十名以上ノ團體又ハ其ノ聯合ナイ
大會ノ他ノ組織ニ關スル規定 五、組各ノ加入脱退ニ關スル規定 六、組合ノ
組合費ノ徵收方法並ニ會計規則規定 七、組合ノ執行機關並ニ其ノ他ノ役員ノ權限資格及ビ任免ニ關スル規定 八、加入金及
組合費ニ關スル規定 九、組合員ノ組合名簿ニ關スル規定 十、組合規約變更ニ關スル規定 十一

組合聯合及ビ合併ニ關スル規定 第四條 勞働組合ノ大會ハ執行機關之ヲ召集ス。組合員三分ノ一以上ノ者ヨリ其ノ目的ヲ定メ召集ノ要求アリタ時執行機關之ヲ召
集ス

第五條 勞働組合が組合員扶助ノ目的ヲ以テ賃金組合又ハ勝負組合又ハ賭博組合又ハ生產組合ノ事務ヲ督ム場合ニハ產業組合法ヲ適用セズ

六條 勞働組合ニ對シテハ所得稅營業税ヲ免除シ又ハ組合ト組合員トノ間ノ法律行為ニ關シテハ印紙税ヲ免除ス
第七條 勞働組合ハ勞働紛議ニツキ役員其ノ他ノ組合員が他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責三位ゼズ

第八條 屋主又ハ其ノ雇用者ハ勞働組合ノ組合員タル故ニ以テ勞働者ヲ解雇シ又ハ屋主ノ申込ヲ拒絶スルコトヲ得ズ

第九條 組合員ハ組合規約ニ違反ニヨリテ組合又ハ組合員ニ及ボシタル損害ヲ賠償スル責三位ズ

第十條 勞働組合が屋主又ハ其ノ團體ト勞働協約ヲ締結シタル場合ニハ之ニ反スル組合員ト屋主ノ單獨契約條項ハ無効トス

第十一條 勞働組合ハ組合員同ノ利益ヲ増進スル爲ノ聯合又ハ合併組合ニハ本法ノ規定ヲ準用ス

第十二條 勞働組合ハ左ノ事項ニヨリ會散ス 一、解散ノ處分 二、解散ノ決議

第十三條 地方長官勞働組合ノ解散ヲサムトス時ハ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ要ス

第十四條 地方長官、勞働組合ノ規約又ハ決議が法令ニ違反スルモノアリト認メタル時ハ警告ヲ發シ若シ應セザル場ニハ其ノ取消繕更

チ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ要ス 第十五條 第八條ノ規定ニ違反シタル屋主又ハ其ノ事務員ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ昭和四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス。本法施行ノ際現存スル被傭者ノ團體ニシテ本法ノ適用ヲ受ケントスルモノハ本法施行ノ日ヨリ